

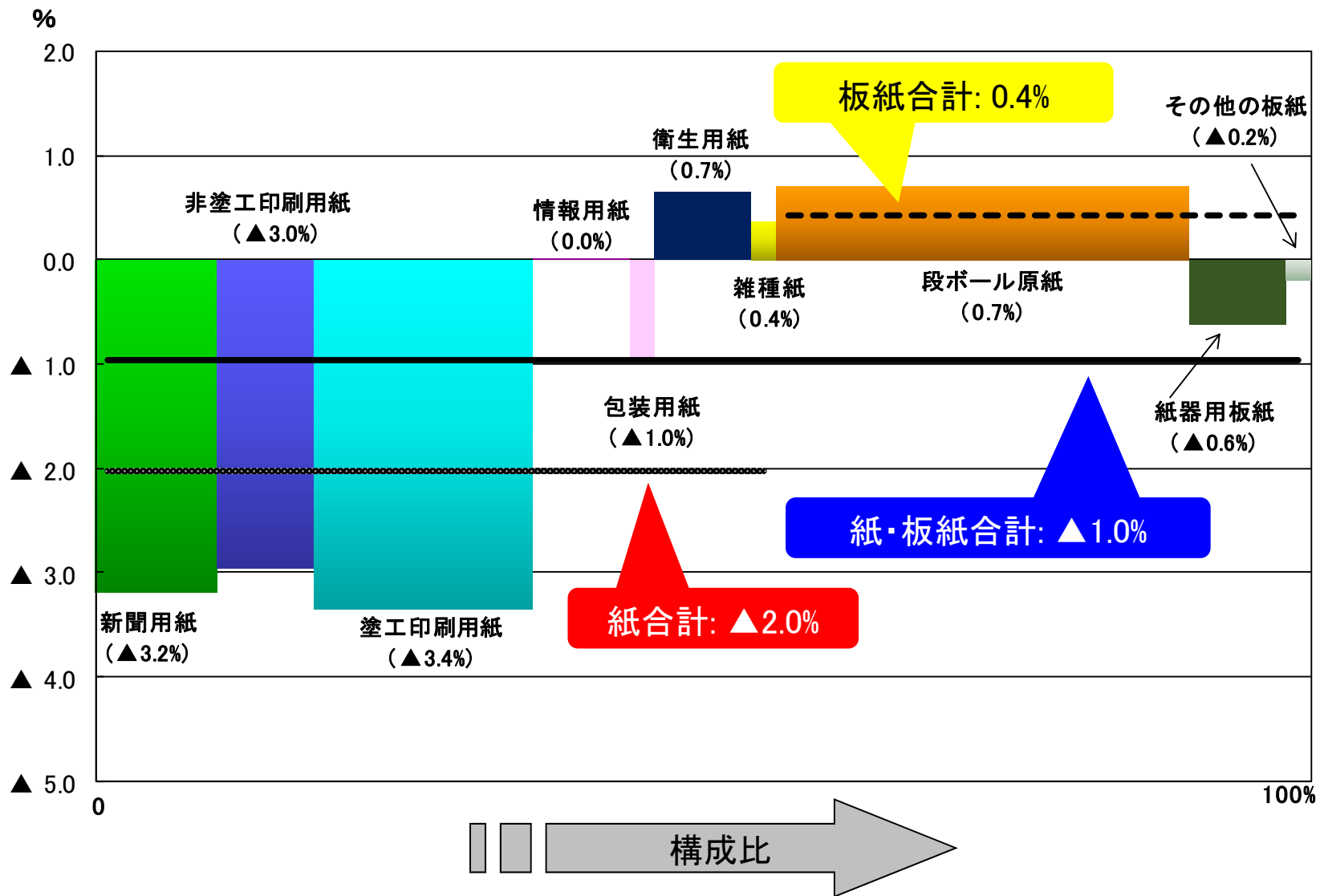
2017 (平成29)年紙・板紙内需試算報告

平成29年1月20日

日本製紙連合会

- I . 2017(平成29)年 紙・板紙内需試算(総括)…P3～5
- II . 2017(平成29)年 品種別内需試算……………P6～20
- III . 2016(平成28)年 紙・板紙内需実績見込み……………P21
- IV . 参 考……………P22

JPA I. 2017 (平成29)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



JPA ②2017(平成29)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%:対前年増減率)

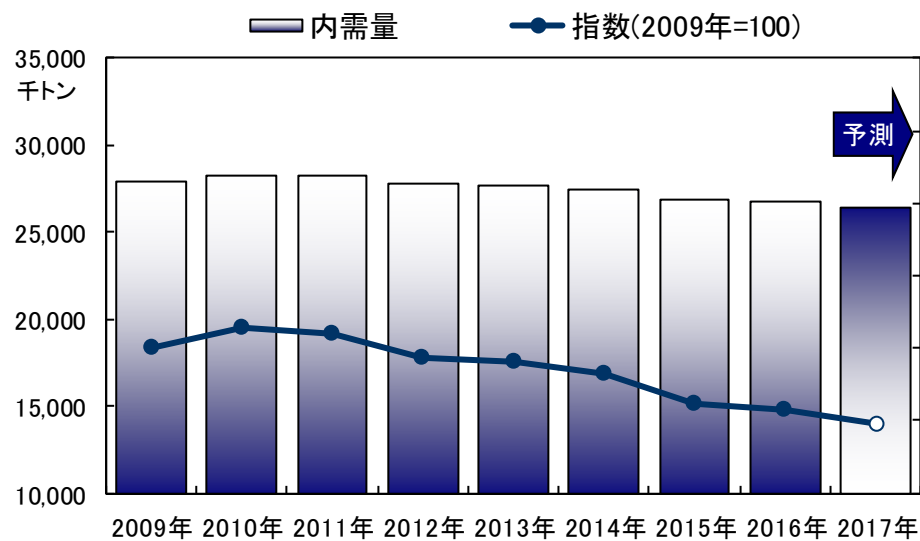
	品 種	2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年見込み		2017年見通し	
		数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率	数量	増減率
紙	新聞用紙	3,414	▲ 6.0	3,349	▲ 1.9	3,245	▲ 3.1	3,305	1.8	3,247	▲ 1.7	3,181	▲ 2.0	3,033	▲ 4.6	2,929	▲ 3.4	2,836	▲ 3.2
	非塗工印刷用紙	2,583	▲ 8.7	2,493	▲ 3.5	2,428	▲ 2.6	2,350	▲ 3.2	2,301	▲ 2.1	2,230	▲ 3.1	2,125	▲ 4.7	2,083	▲ 2.0	2,021	▲ 3.0
	塗工印刷用紙	5,694	▲ 12.6	5,570	▲ 2.2	5,602	0.6	5,476	▲ 2.3	5,391	▲ 1.5	5,170	▲ 4.1	4,954	▲ 4.2	4,750	▲ 4.1	4,590	▲ 3.4
	情報用紙	1,847	▲ 8.1	1,886	2.1	1,853	▲ 1.8	1,849	▲ 0.2	1,839	▲ 0.6	1,831	▲ 0.5	1,813	▲ 1.0	1,836	1.3	1,836	0.0
	印刷・情報用紙計	10,123	▲ 10.8	9,949	▲ 1.7	9,883	▲ 0.7	9,676	▲ 2.1	9,531	▲ 1.5	9,231	▲ 3.2	8,893	▲ 3.7	8,669	▲ 2.5	8,448	▲ 2.5
	包装用紙	781	▲ 17.1	852	9.1	825	▲ 3.2	776	▲ 6.0	761	▲ 1.9	766	0.6	729	▲ 4.8	716	▲ 1.8	709	▲ 1.0
	衛生用紙	1,836	0.2	1,856	1.1	1,873	0.9	1,880	0.4	1,895	0.8	1,945	2.6	1,946	0.1	2,010	3.3	2,023	0.7
	雑種紙	713	▲ 13.2	797	11.8	768	▲ 3.7	744	▲ 3.2	728	▲ 2.1	758	4.1	747	▲ 1.4	733	▲ 1.9	735	0.4
	紙 計	16,867	▲ 9.2	16,804	▲ 0.4	16,595	▲ 1.2	16,380	▲ 1.3	16,162	▲ 1.3	15,880	▲ 1.7	15,348	▲ 3.3	15,056	▲ 1.9	14,751	▲ 2.0
板	ライナー	5,024	▲ 8.4	5,232	4.1	5,285	1.1	5,207	▲ 1.5	5,276	1.3	5,330	1.0	5,336	0.1	5,430	1.8	5,468	0.7
	中芯原紙	3,372	▲ 8.8	3,496	3.7	3,515	0.6	3,477	▲ 1.1	3,511	1.0	3,547	1.0	3,549	0.1	3,586	1.1	3,611	0.7
	段ボール原紙計	8,397	▲ 8.6	8,728	3.9	8,800	0.9	8,684	▲ 1.3	8,788	1.2	8,877	1.0	8,884	0.1	9,016	1.5	9,079	0.7
	白板紙	1,886	▲ 7.4	1,939	2.8	1,975	1.9	1,888	▲ 4.4	1,901	0.7	1,858	▲ 2.3	1,838	▲ 1.0	1,856	1.0	1,844	▲ 0.6
	黄チップ・色板	151	▲ 17.1	155	2.8	155	0.0	143	▲ 7.7	144	0.8	146	1.2	145	▲ 1.1	143	▲ 1.0	142	▲ 0.6
	紙器用板紙計	2,037	▲ 8.2	2,094	2.8	2,130	1.7	2,031	▲ 4.7	2,046	0.7	2,004	▲ 2.0	1,983	▲ 1.1	1,999	0.8	1,987	▲ 0.6
	その他の板紙	612	▲ 21.1	667	9.0	672	0.6	651	▲ 3.1	669	2.8	674	0.7	650	▲ 3.5	647	▲ 0.5	645	▲ 0.2
	板 紙 計	11,046	▲ 9.3	11,489	4.0	11,602	1.1	11,366	▲ 2.0	11,503	1.2	11,555	0.5	11,517	▲ 0.3	11,662	1.3	11,711	0.4
紙・板紙計	27,913	▲ 9.2	28,293	1.4	28,197	▲ 0.3	27,746	▲ 1.6	27,665	▲ 0.3	27,434	▲ 0.8	26,866	▲ 2.1	26,718	▲ 0.5	26,462	▲ 1.0	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

JPA ③2017(平成29)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気は徐々に回復の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実質GDPプラス予想。企業業績は改善へ ・雇用・所得環境の改善。個人消費は緩やかに増加 <p>②インバウンド効果の継続</p> <p>訪日外国人の増加による消費需要(特に衛生用紙分野)</p> <p>③商業施設、ホテルの増加に伴う関連需要</p> <p>④食品・医薬・健康関連市場は堅調</p> <p>⑤通販市場の拡大続く</p>	<p>①構造的要因の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人口減／少子高齢化 ■電子媒体へのシフト <ul style="list-style-type: none"> ・紙の出版物減少や広告の紙離れ ・企業や自治体等におけるペーパーレス化 ・スマートフォン等の利用拡大(コンテンツの充実) ■包装合理化の動き <ul style="list-style-type: none"> ・省包装/簡素化の動き ・包装資材の他素材へのシフト ・段ボール原紙の軽量化の進展 <p>②大きなイベントの減少</p> <p>③うるう年の反動</p>

JPA II. 2017(平成29)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

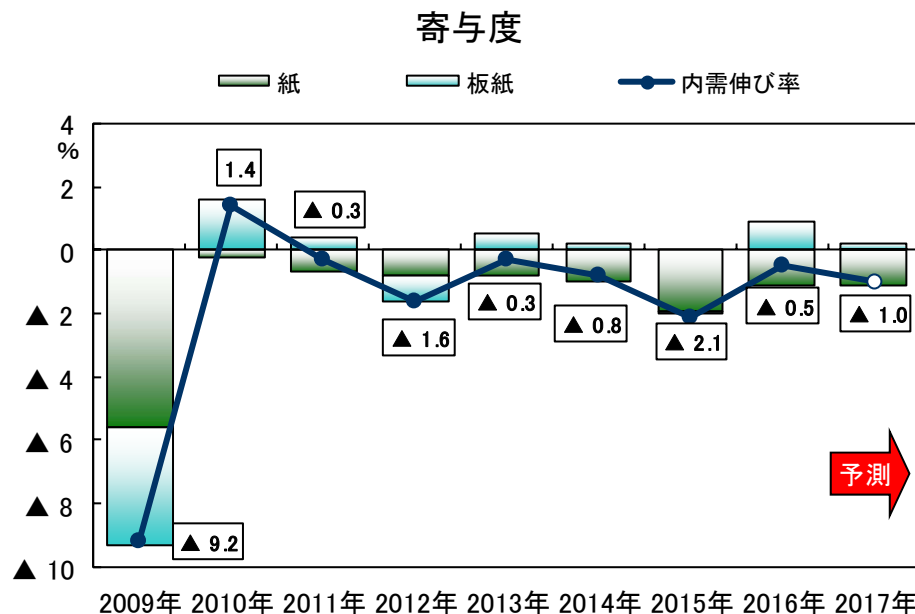


「近年の動向」

★紙・板紙の内需はリーマン・ショック直後の2009年に大きく数量を落とし、2010年にプラスとなったものの、2011年以降はマイナスが続いている。特に紙は2006年に過去最高を記録した後、2016年は10年連続のマイナスとなった。板紙は主力の段ボール原紙がほぼプラスで推移しており、12年、15年以外は前年を上回っている。

「2017年予測」

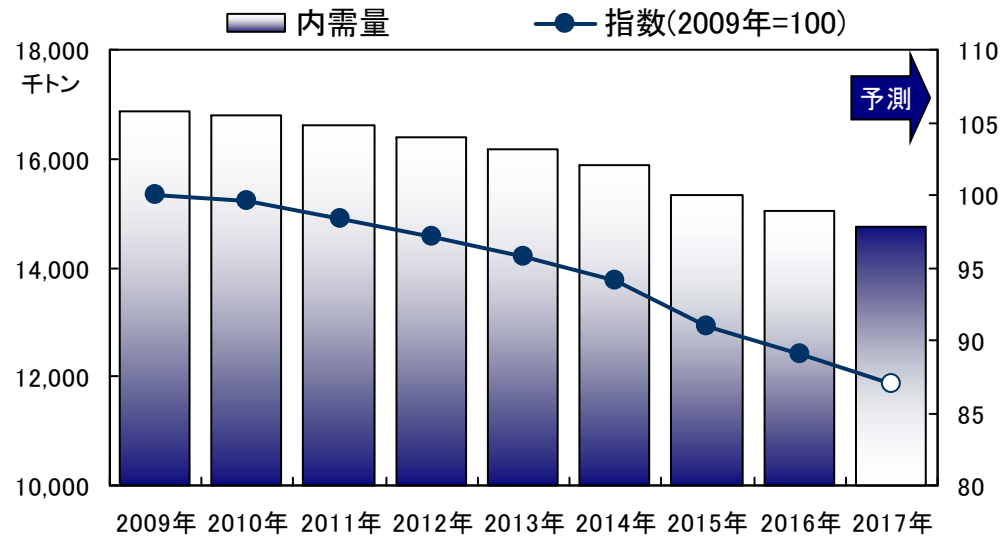
☆2017年は、経済が緩やかな成長を続けると見込まれる中、段ボール原紙と衛生用紙は前年を上回ると予想する。一方、グラフィック用紙においては、電子媒体へのシフトやペーパーレス化等の構造的要因の影響が続く。紙・板紙全体の内需は前年を下回ると予測した。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,646万トン、前年に対して1.0%減、約26万トンの減少。マイナス成長は7年連続。

☆紙・板紙別寄与度は、紙は1.1pt減、板紙は0.2pt増と、紙のマイナスが全体を押し下げる結果になっている。

JPA (2) 紙合計



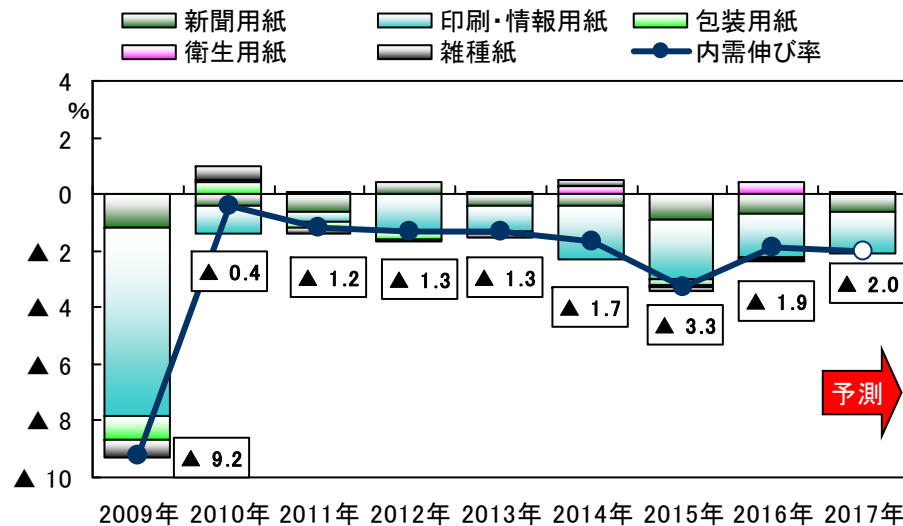
「近年の動向」

★紙の内需は2006年をピークに縮小している。特に、リーマン・ショック直後の2009年に大きく数量を落とし、2010年以降もマイナスが続いている。2016年は衛生用紙は前年を上回ったものの、新聞用紙、印刷・情報用紙等は構造的要因等から引き続き前年を下回り、紙全体では10年連続で前年を下回った。

「2017年予測」

☆主要品種について、衛生用紙は微増を予測したが、新聞用紙、印刷・情報用紙は電子化の進行、ペーパーレス化等により減少。包装用紙は他部材へのシフト等により減少を見込んだ。

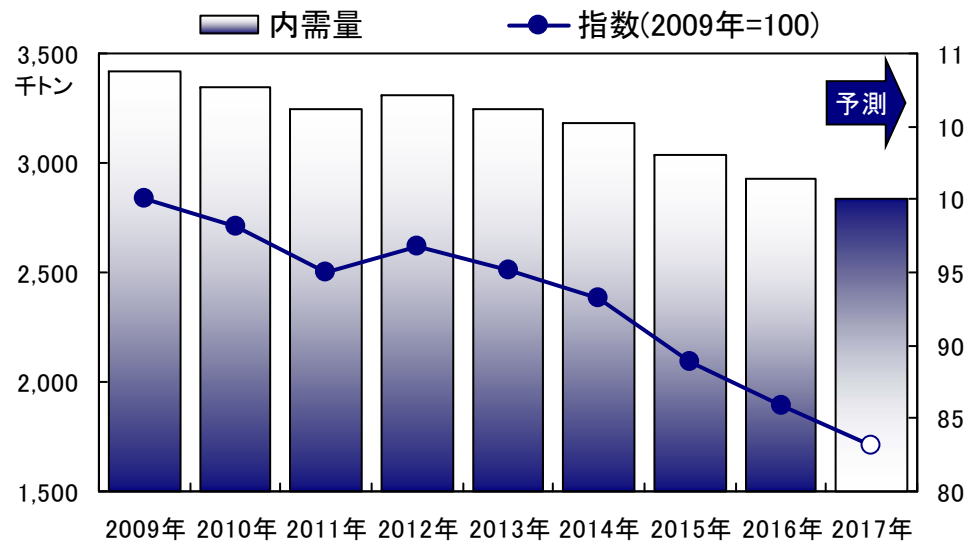
寄与度



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,475万トン、前年に対して2.0%減、約31万トンの減少となる。マイナス成長は11年連続。

☆品種別寄与度は、新聞用紙は0.6pt減、印刷・情報用紙は1.5pt減、包装用紙は0.0pt減、衛生用紙は0.1pt増となっている。

JPA (3) 新聞用紙



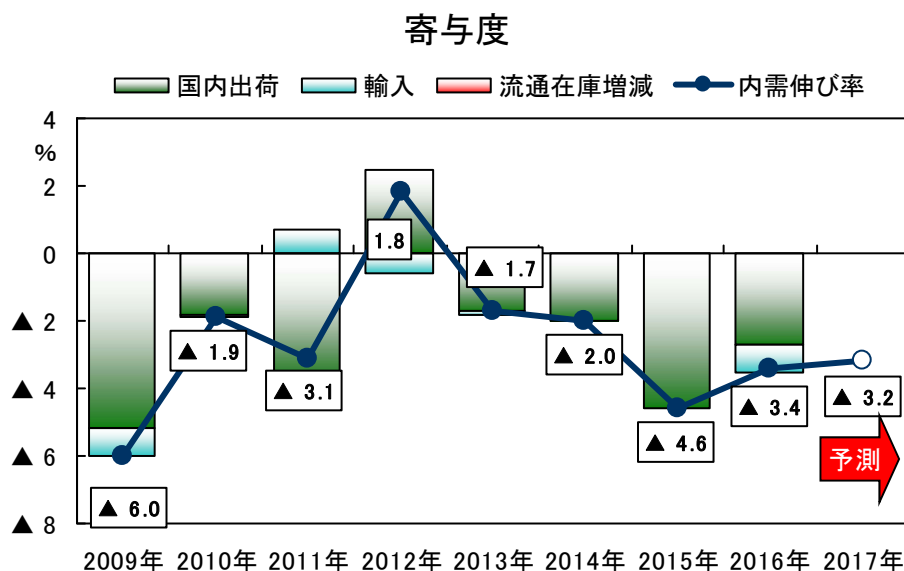
「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告主のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。近年でプラスだったのは、うるう年による発行日数増等の押し上げ要因があった2012年のみ。2016年については、うるう年による発行日数増があったにもかかわらず、発行部数減の影響が大きかったため、内需はマイナスとなり、1987年以来、29年ぶりに300万トンを割り込んだ。

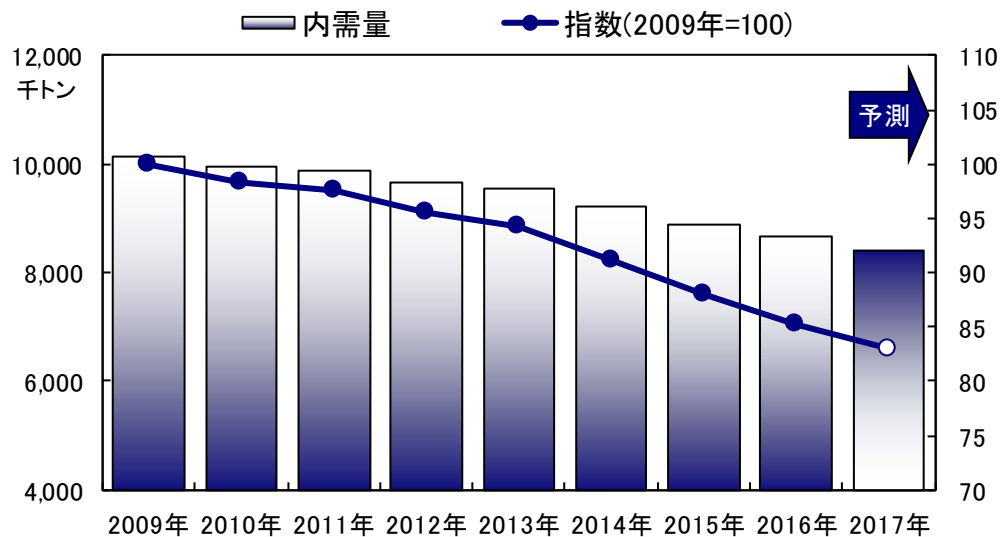
「2017年予測」

☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。頁数は、広告の他媒体へのシフト継続で広告出稿が低調に推移すると見られることから、前年を下回ることが予想される。発行部数は、減少は続くものの、減少幅は前年に比べ縮小する見通し。スポット要因としては、2016年はうるう年による発行日数増、参議院選挙、リオデジャネイロ五輪があったが、2017年については明確な需要押し上げ要因となるようなイベント等は予定されていない。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し3.2%の減少を見込んだ。



JPA (4) 印刷・情報用紙



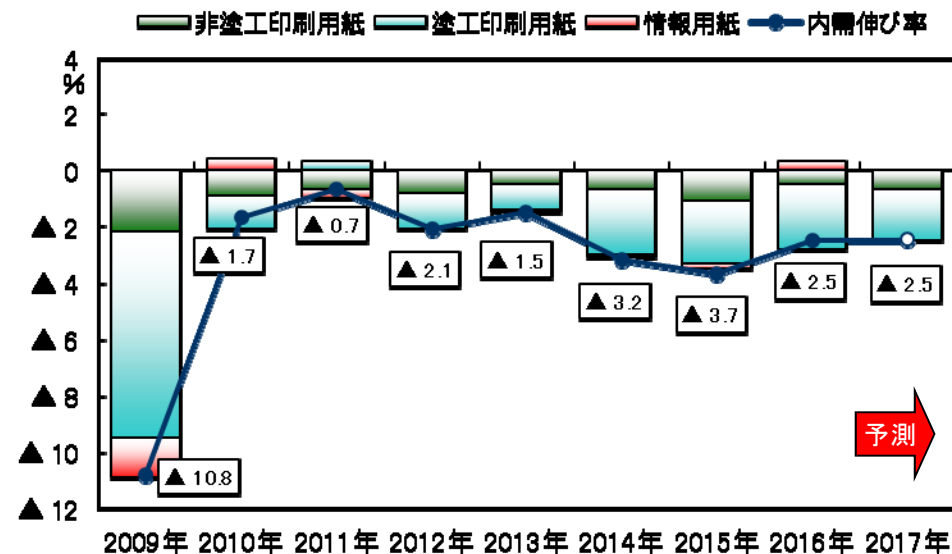
「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小を続けている。特にリーマン・ショック直後の2009年に大きく数量を落とし、2010年には1,000万トンを割り込んだ。2016年もマイナス幅は縮小したものの、減少基調は続いた。主要品種は、情報用紙は微増も、印刷用紙(非塗工、塗工)は減少し、印刷・情報用紙全体では、10年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷(3年連続)、輸入(4年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は、1.2pt減少の11.7%に低下した。

「2017年予測」

☆非塗工、塗工については減少継続、情報は横ばいを見込んだ。

寄与度

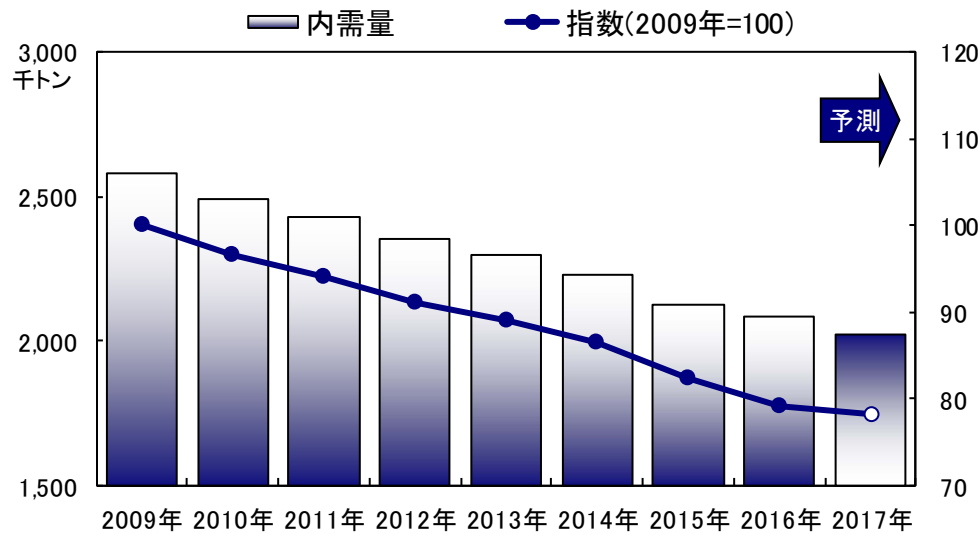


☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は845万トン、前年に対し2.5%減、約22万トンの減少となる。マイナス成長は11年連続。

☆品種別寄与度は、非塗工印刷用紙は0.7pt減、塗工印刷用紙は1.8pt減、情報用紙は0.0pt増と、印刷用紙を中心にマイナスとなっている。

☆詳細については当該品種頁参照。

JPA (4)-① 非塗工印刷用紙



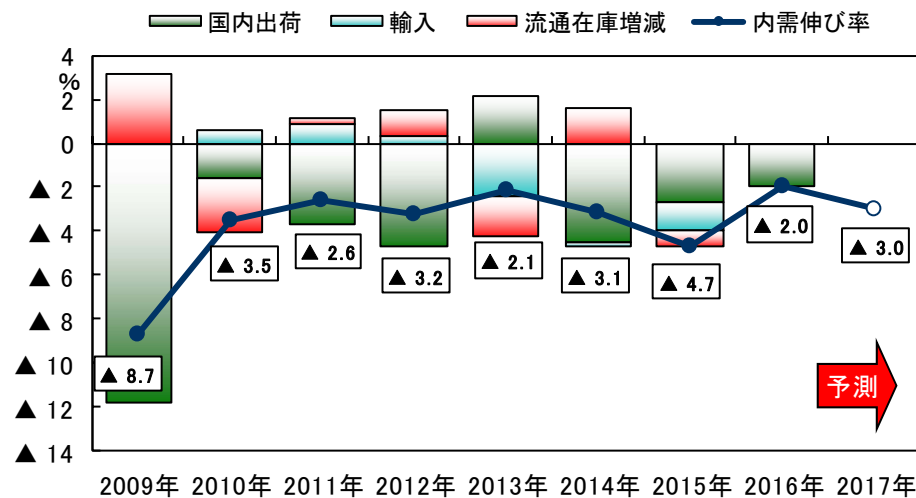
「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、他の品種同様、リーマン・ショック後に大きく数量を落とした。その後も中・下級印刷紙を中心に縮小が続いている。2016年は、汎用性の高い上級印刷紙が底堅い需要を示したものの、全体では長期低落傾向に歯止めはかからず、2005年以降12年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷(3年連続)は減少、輸入は前年比ほぼ横ばいとなった。

「2017年予測」

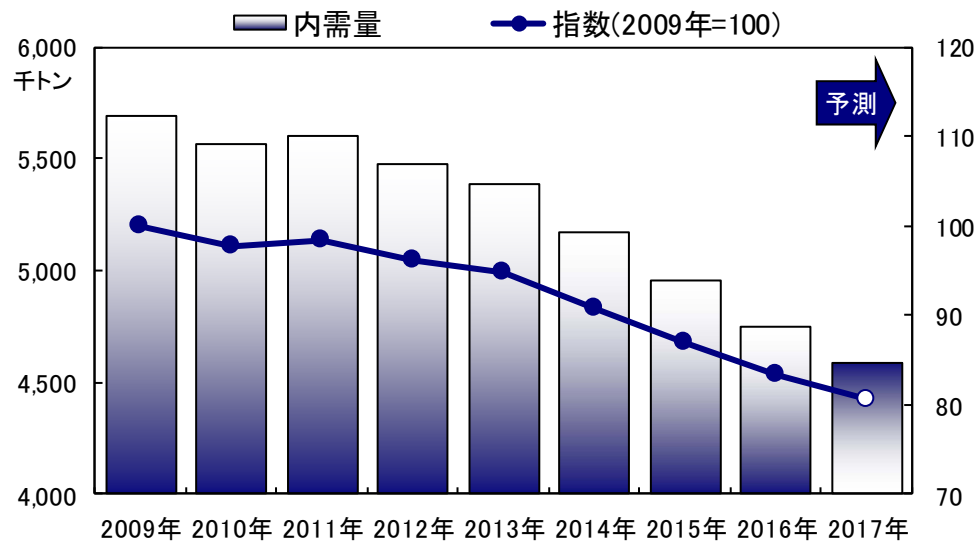
☆上級印刷紙は、汎用性が高く、用途は広範囲に及び、底堅い需要がある。また、一部には電子から紙媒体への回帰といった動きも見られるが、引き続き企業の経費削減、電子化の進行に伴う帳票類等の減少や小口印刷の内製化等の影響が大きいことから、全体では前年比微減を予想する。中・下級印刷紙については、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が依然として厳しく、発行部数の減少が続いている。特に雑誌向けは、スマートフォンやタブレット端末向けのアプリケーション・ソフトの拡大等による情報源や娯楽の多様化等により引き続き不振が予想される。

寄与度



☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.0%の減少を見込んだ。

JPA (4)- ② 塗工印刷用紙

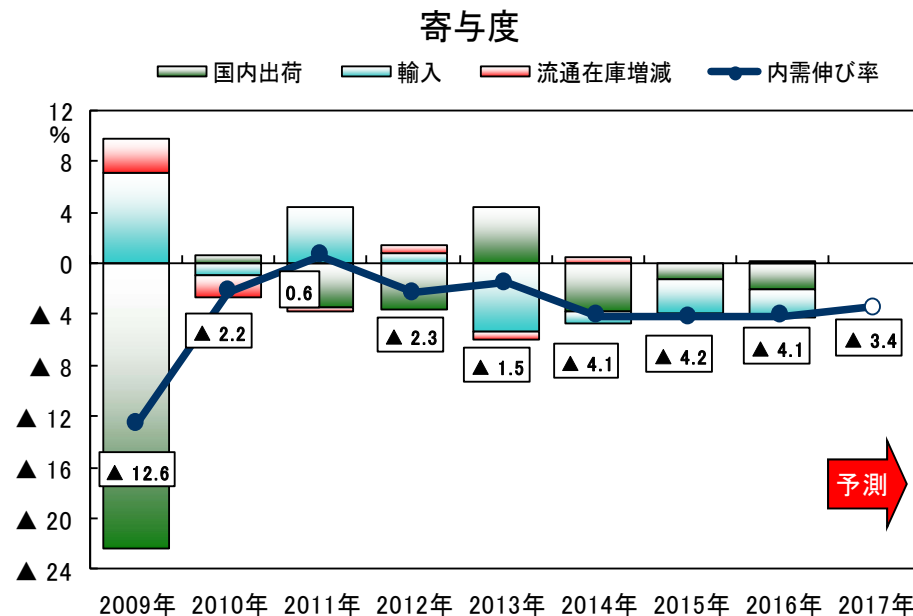


「近年の動向」

★印刷・情報用紙の5割強を占める塗工印刷用紙の内需は、2007年より縮小、特にリーマン・ショック直後の2009年に大きく減少し、その後も縮小傾向にある。2016年は、景気回復も電子化の進行等の影響もあり、商業印刷向けを中心に主要品種は前年を下回った。サプライ別には、国内出荷(3年連続)、輸入(4年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は前年比1.9pt減少の8.0%に低下。ピークの2012年(17.9%)に比して9.9pt減少した。

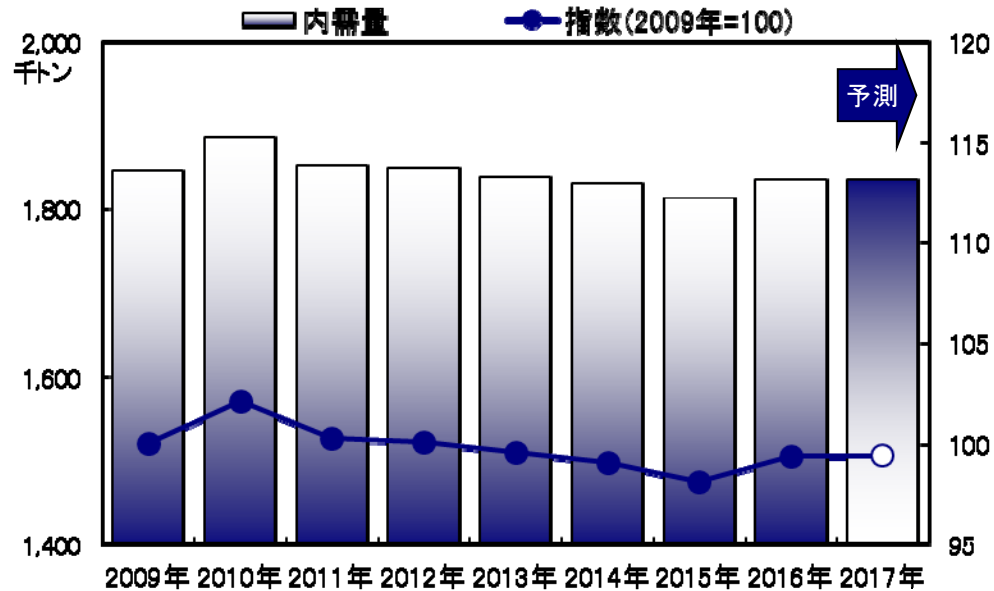
「2017年予測」

☆景気の緩やかな上昇が期待されるなか、企業業績の改善に伴い、広告増が予想されるが、紙媒体への需要は減少傾向が続くものと思われる。ユーザーの継続的なコスト削減に加えて、ネット広告へのシフトや低米坪化が続くと見られる。また、カタログ、チラシ等、販促用商業印刷については、部数減やサイズダウン等により、引き続き低調に推移するものと予想される。



☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.4%の減少と予測した。主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見込んだ。

JPA (4) - ③ 情報用紙



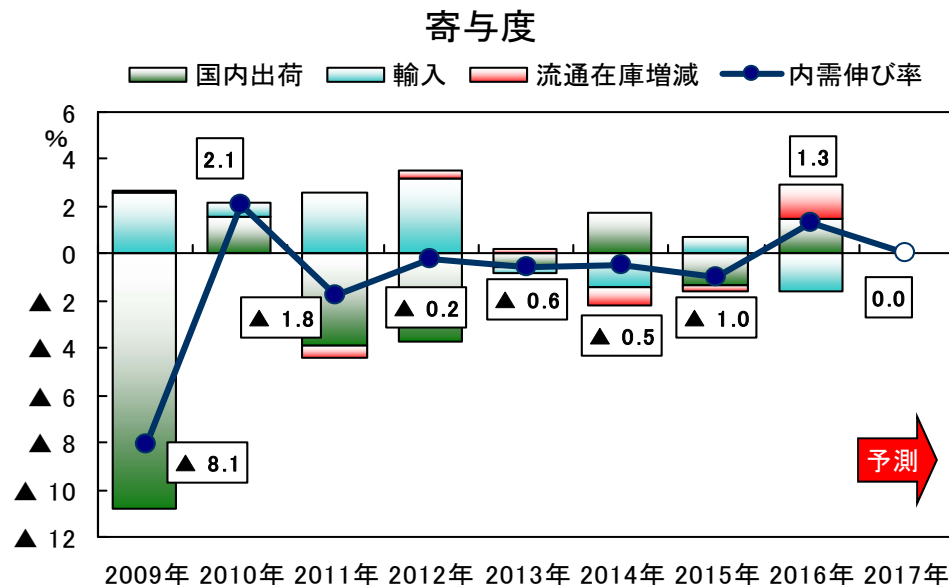
「近年の動向」

★情報用紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく減少した後、2010年は反動により増加に転じたが、2011年以降は、印刷用紙よりは比較的底堅い動きとなったものの減少が続いた。品種別では、PPC用紙が堅調に推移しているのを除き、ほとんどの品種がマイナス基調となっている。2016年については、PPC用紙が牽引し、6年ぶりのプラスに転じた。サプライ別にみると、国内出荷は増加、輸入は減少し、輸入比率は前年比1.6pt減少の26.7%。

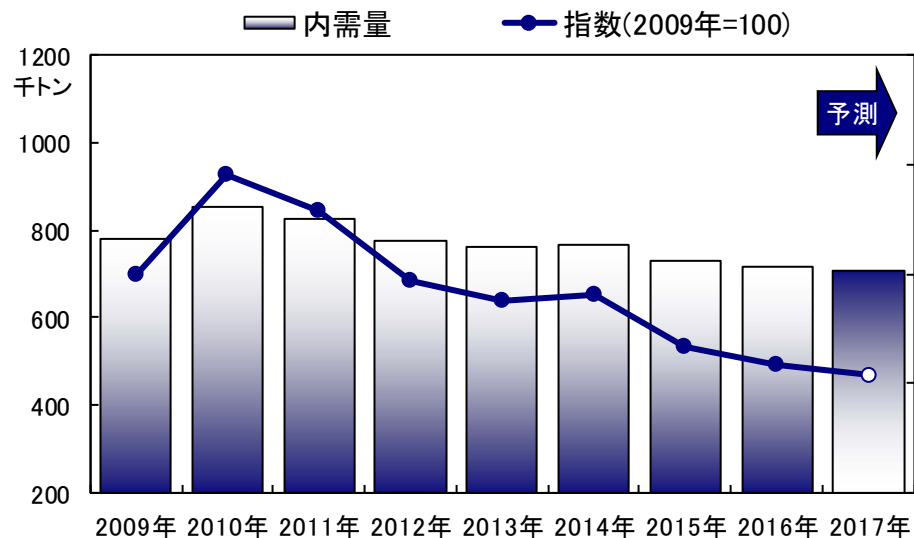
「2017年予測」

☆PPC用紙は汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。ユーザーの節約志向は続いているが、他品種(フォーム用紙等)からのシフトもあり、前年比微増を期待する。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙については、カット紙化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。情報記録紙については、物流分野での感熱紙ラベル等、堅調な分野もあるが、電子化の影響等もあり、全体としては前年比微減を見込む。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し横ばいを見込んだ。



JPA (5) 包装用紙



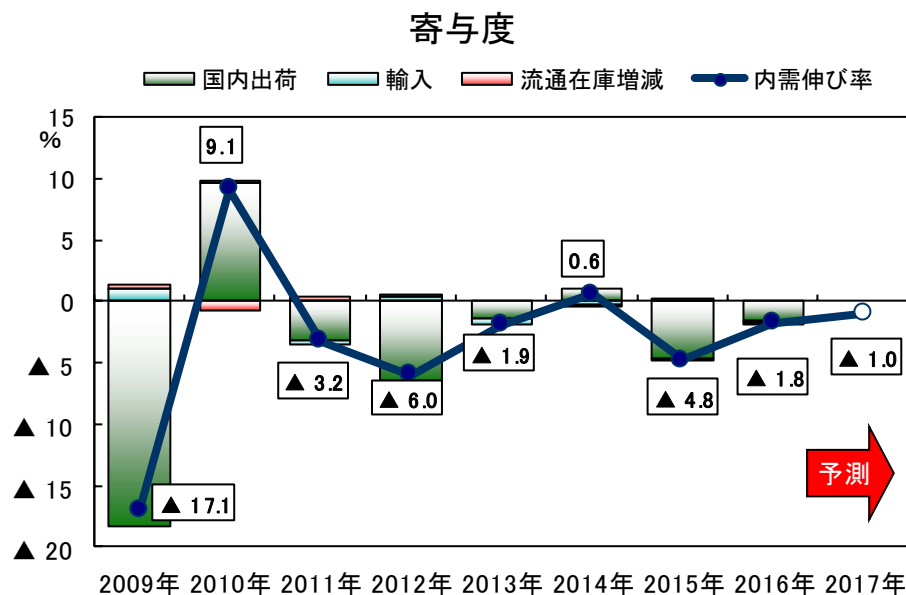
「近年の動向」

★包装用紙の内需は、リーマン・ショック直後の2009年に大きく落ち込み、2010年は前年の落ち込みの反動から3年ぶりのプラスに転じた。2011年以降は省包装化やポリ袋等他素材へのシフトから減少傾向で推移したが、2014年は消費増税前の駆け込み需要等から4年ぶりに増加した。2016年は米麦袋の不振や前年のマイナンバー需要の反動等から2年連続で前年を下回った。

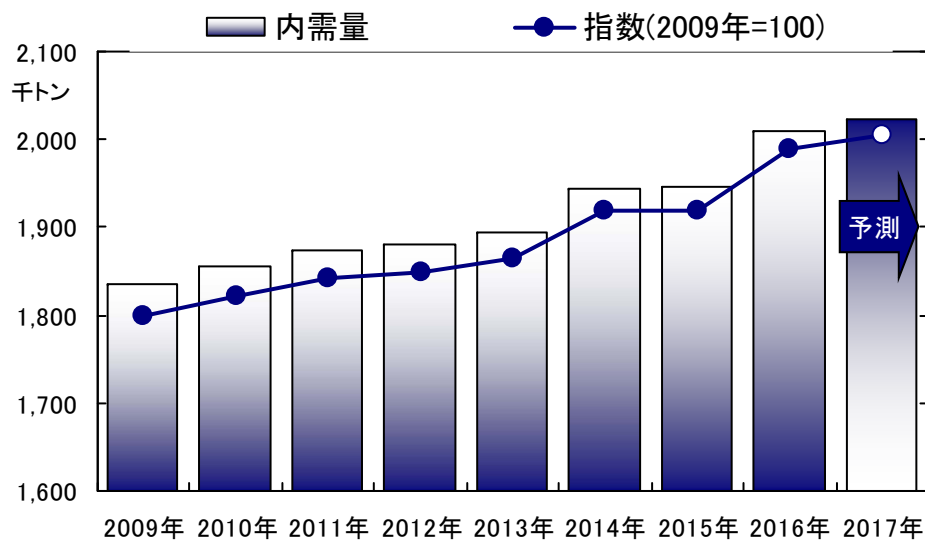
「2017年予測」

☆ユーザーのコスト意識は強く、簡易包装や省包装化、ポリ袋等他素材へのシフトは継続すると予想される。品種別には、未ざらし包装紙は、ファーストフードや宅配袋向けは増加が期待されるも、主要需要先の一つである米麦袋は、主食用米の作付け面積の減少を背景にマイナスが見込まれ、全体では前年を下回ることが予想される。さらし包装紙は、加工用途である食品向けは堅調も、角底・手提袋は百貨店を中心に減少が予想され、全体では前年を下回ると見られる。

☆以上を勘案し、包装用紙の内需は前年に対し1.0%の減少を見込んだ。



JPA (6) 衛生用紙



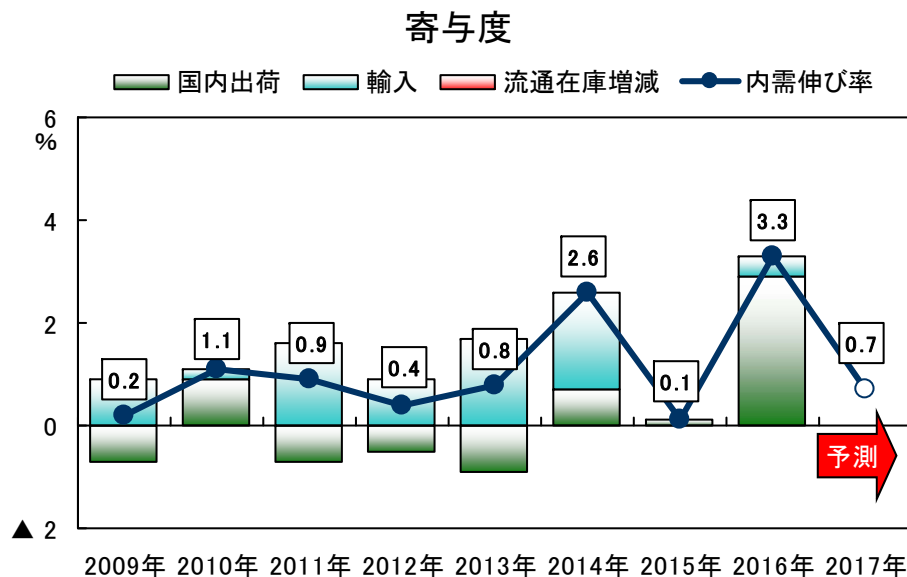
「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、生活必需品としての底堅い需要等により2008年から増加が続いている。2014年は消費増税前の駆け込み需要により近年では比較的大きな増加となり、2015年はその反動から微増に落ち着いた。2016年はタオル用紙の需要増が牽引し、衛生用紙全体の内需は9年連続のプラスとなった。サプライ別では、国内出荷は3年連続の増加、輸入は2年ぶりの増加となり、ともに過去最高。輸入比率は9.3%で前年より0.1pt増と、ほぼ横ばいで推移した。

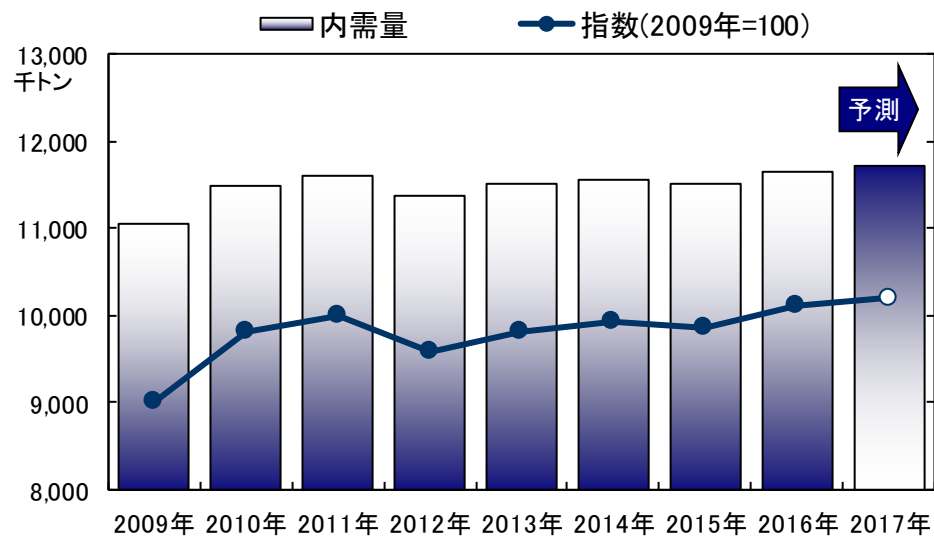
「2017年予測」

☆衛生用紙は人口減少といったマイナス要因はあるものの、生活必需品としての底堅い需要や、世帯数の増加、訪日外国人の増加によるインバウンド効果等からプラスが予想される。品種別では①ティッシュペーパーは生活必需品としての底堅い需要や、保湿ティッシュ等の高付加価値製品の需要、②トイレtpペーパーはインバウンド効果による需要、③タオル用紙は商業施設・ホテルの増加に伴う業務用需要がそれぞれ見込まれることから、衛生用紙全体の需要は増加する見通し。

☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し0.7%の増加を見込んだ。



JPA (7) 板紙合計



「近年の動向」

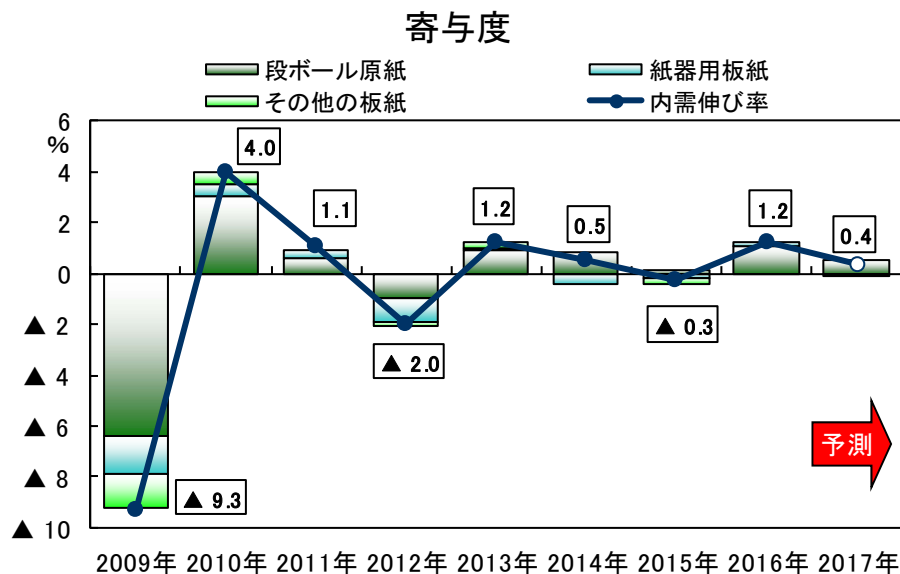
★板紙の内需は、リーマン・ショック直後の2009年に大きく減少した。2010年は前年の大幅減の反動増もあり4年ぶりに増加、2011年は大震災後の被災地支援等がプラスに寄与し、2年連続で前年を上回った。2012年は輸出関連需要の減少等から前年を下回ったが、2013年以降は堅調な食品需要に支えられ増加傾向で推移した。2016年は加工食品や電気・機械器具向けの増加から前年を上回った。

「2017年予測」

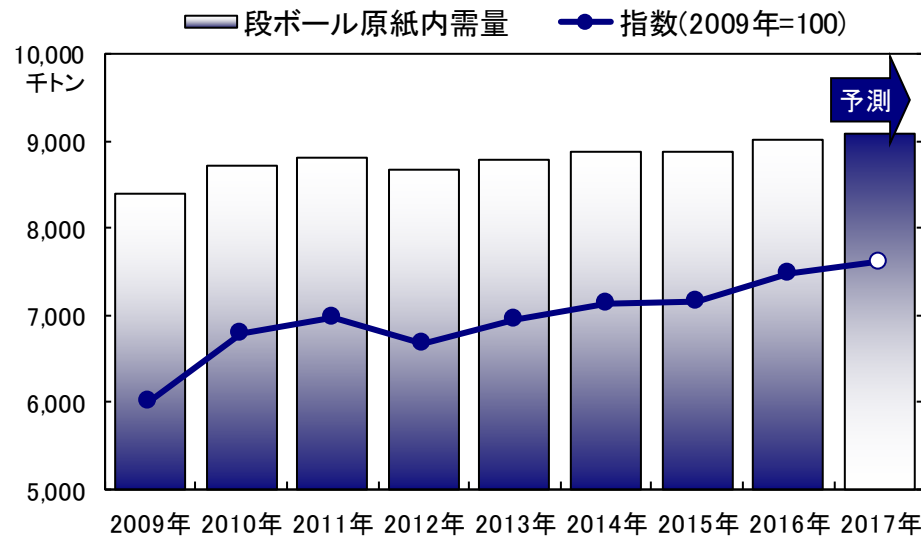
☆主要品種について、主力の段ボール原紙は0.7%増、他方、紙器用板紙は0.6%減(うち白板紙は0.6%減)とマイナスを見込んだ。

☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,171万トン、前年に対して0.4%増、約5万トンの増加となる。プラス成長は2年連続。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.5pt増、紙器用板紙は0.1pt減、その他の板紙が0.0pt減と主力の段ボール原紙が牽引する。



JPA (8) 段ボール原紙①



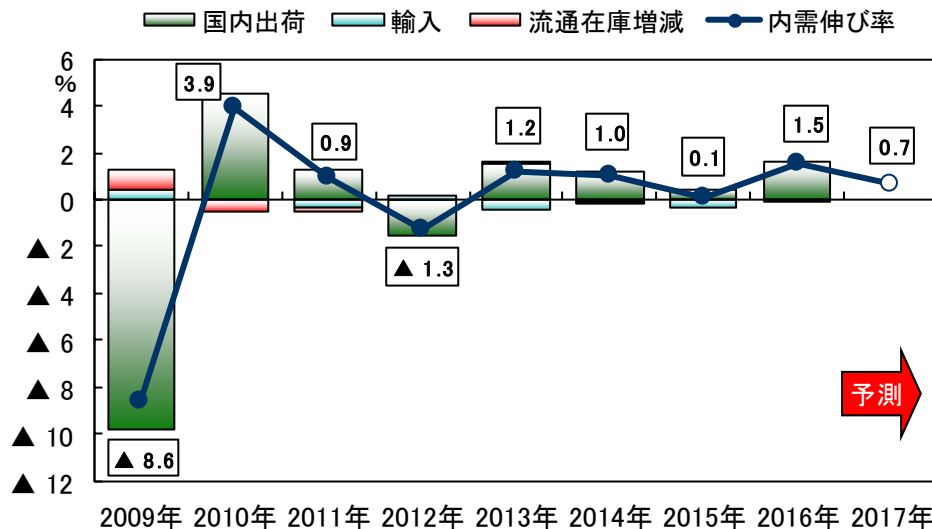
「近年の動向」

- ★段ボール原紙の内需は、2009年にリーマンショックの影響を受け大幅なマイナスとなった。
- 2010年は弱いながらも前年の落ち込みの反動等から3年ぶりのプラスに転じ、2011年は大震災後の特需もあり2年連続でプラスとなった。
- 2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回ったが、2013年以降は飲料を含めた加工食品向けの増加等から、4年連続で前年を上回った。

「2017年予測」

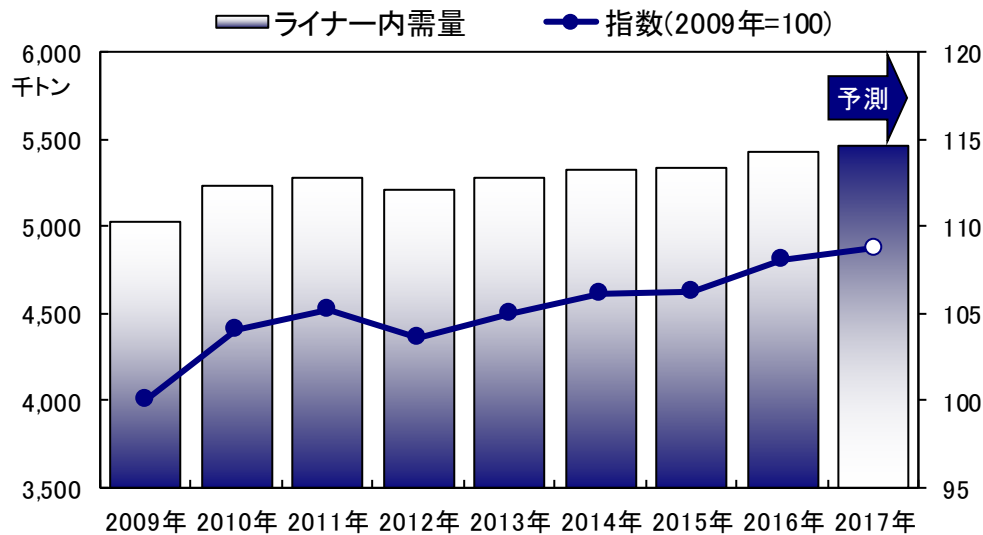
- ☆全国段ボール工業組合連合会(全段連)の需要予測によれば、段ボールシートの生産は1.0%増とプラスを見通している。主要分野では、食品向けを中心に総じて堅調と見ている。
- 段ボール原紙については、これらの需要動向を参考に、近年の原紙の軽量化を加味し、プラスを見込んだ。

寄与度



- ☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.7%の増加(ライナー:0.7%増、中芯原紙:0.7%増)を見込んだ。

JPA (8) 段ボール原紙②



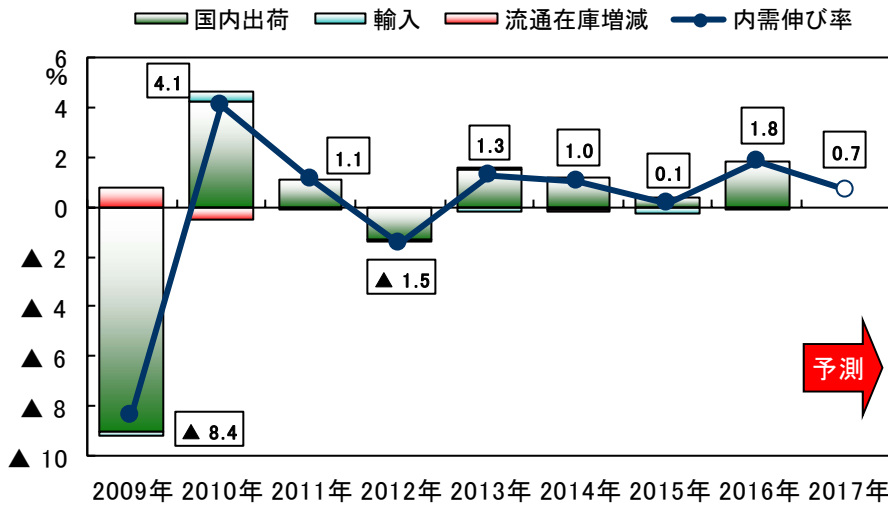
「2017年予測:分野別の需要動向」

☆加工食品向け(2016年1-10月需要部門別構成比:42.9%、以下同じ)は、冷凍食品は内食化の定着や世帯数の増加(特に一人世帯数の増加)、さらにインバウンド需要もプラスに寄与し増加が見込まれ、菓子分野はビスケットやスナック菓子を中心に堅調と予想される。飲料分野では、アルコール関係は、ビール類は「発泡酒」の不振から引き続き減少が予想されるも、チューハイを中心としたRTD飲料は好調で、全体では前年並みと見られる。清涼飲料は、炭酸飲料や茶系飲料は増加が予想され、ミネラルウォーターも堅調と見られるため、増加が見込まれる。加工食品全体では前年を上回ると予想される。

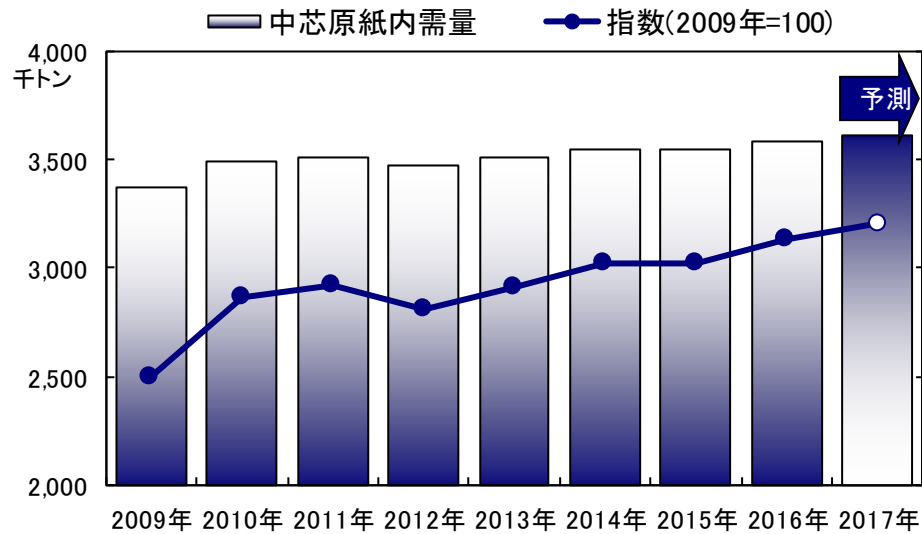
☆青果物向け(構成比:10.7%)は、農業人口や作付け面積の減少傾向はあるものの、食の安心・安全を背景とした国産品需要の高まりや農産物の輸出増もあり、前年並みが予想される。

☆電気器具・機械器具向け(構成比:7.4%)は、中国の経済成長の鈍化による影響等は懸念されるが、自動車や電子部品等の生産には回復が予想され、2020年東京五輪のインフラ関連需要等の恩恵も期待されることから、前年並みが予想される。

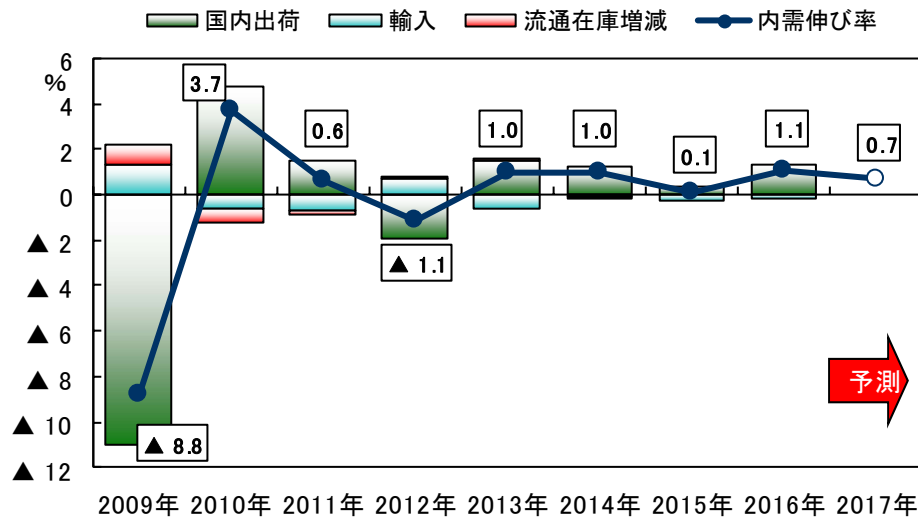
寄与度



JPA (8) 段ボール原紙③



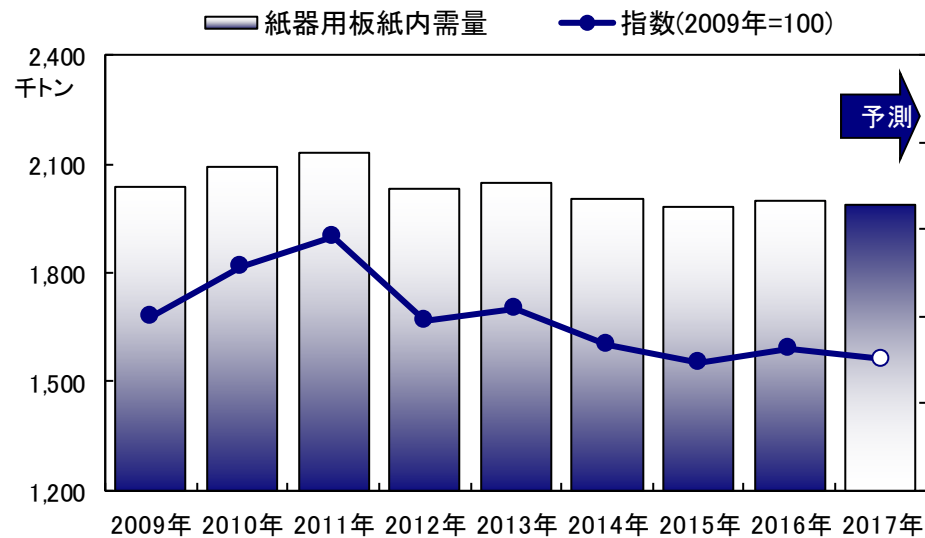
寄与度



「2017年予測: 分野別の需要動向」

- ☆薬品・洗剤・化粧品向け(構成比:6.3%)は、高齢化社会による需要増や、ジェネリック医薬品の増加、さらにインバウンド需要も引き続き期待され、前年を上回ることが予想される。
- ☆陶磁器・ガラス製品・雑貨向け(構成比:5.2%)は、消費者の節約志向は依然根強いものの、近年の自然災害等を背景に防災関連需要は堅調と見られ、2020年東京五輪のインフラ関連需要等の恩恵も期待されることから、前年を上回ると予想される。
- ☆通販・宅配・引越向け(構成比:4.8%)は、ネット通販を中心に好調で、スマートフォンの普及や高齢化社会は追い風になると見られ、増加が予想される。
- ☆繊維製品向け(構成比:1.8%)は、消費者の節約志向や少子化はあるものの、衣料品生産の国内回帰や海外輸出の動きも見られることから、前年並みと予想される。

JPA (9) 紙器用板紙—①



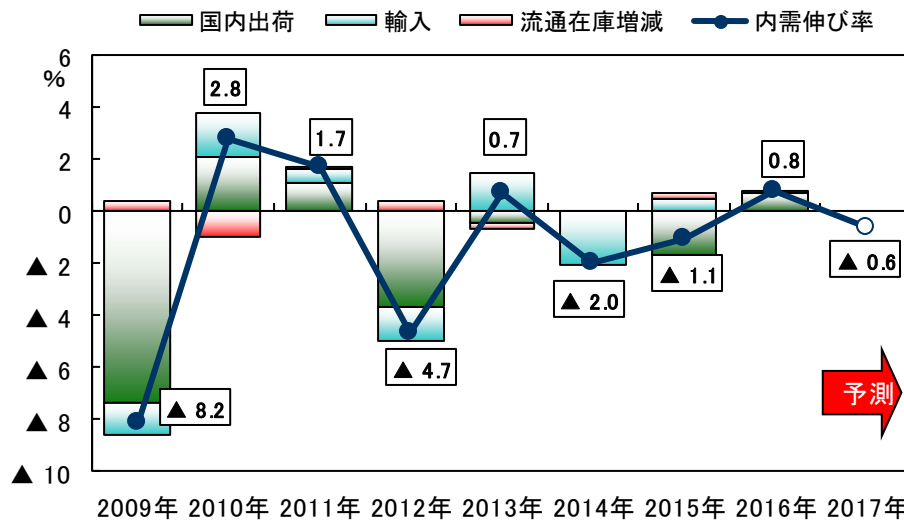
「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は、リーマンショックの反動と震災による特需により2010年、2011年と2年連続で前年を上回った。その後は2013年を除いて軟包装へのシフト等、ユーザーの包装合理化が進むなかで減少傾向で推移した。2016年は菓子類を始めとした食品分野の堅調さに加え、インバウンド効果もあり3年ぶりに増加した。

「2017年予測」

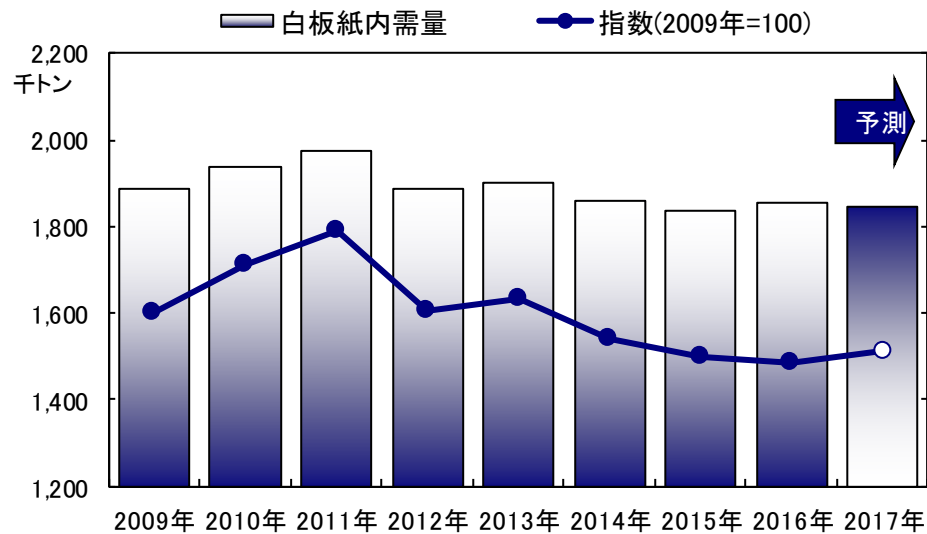
☆内食化の定着や健康志向等、食品・医薬品関連の需要は堅調と見られる。一方、ユーザーのコスト意識は依然強く、箱の小型化や軟包装化は引き続き進むものと見られる。インバウンド需要の効果も以前程期待されないところから、内需は前年を下回ると予想される。

寄与度



☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.6%の減少(白板紙:0.6%減、黄・チップ・色板紙:0.6%減)を見込んだ。

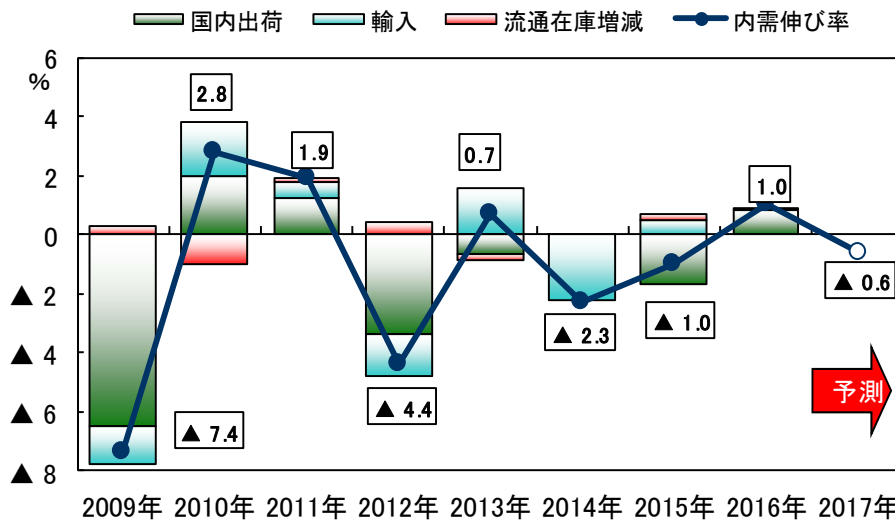
JPA (9) 紙器用板紙②



「2017年予測:分野別の需要動向」

- ☆一般食品向けは、節約志向により内食化は継続。レトルト食品はカレー、中華の具等を中心に堅調な動きが予想される。ファーストフードやコンビニのカウンター商品向けは堅調な動きを予想するも、お土産品等のインバウンド需要は昨年ほどの伸びは期待できず、全体では横ばいと予想される。
- ☆菓子関係は、春のイースターや秋のハロウィンといった新たなイベントに伴う需要も期待されるが、バレンタインのような需要創出に致るかは不透明である。またクリスマスやバレンタイン需要は成熟化しており、横ばいもしくは微増が予想される。

寄与度



☆医薬・化粧品向けは、高齢化社会や健康志向の高まりに変化は無く、ジェネリック薬品や健康食品が堅調に推移し増加が予想される。

☆商業印刷向けは、たばこ関連POPの落込みが見込まれる。またトレーディングカードも、ヒットキャラクター不在に他素材へのシフト、電子化もありマイナスが予想される。

☆出版書籍向けは、定期刊行物の休廃刊や発行部数の減少等により、引き続き前年を下回ると予想される。

JPA Ⅲ. 2016年 紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		16年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	2,913,107	▲ 2.7	16,217	▲ 58.6	2,929,324	▲ 3.4	0	2,929,324	▲ 3.4	▲ 2.0	▲ 1.4
	非塗工印刷用紙	1,934,638	▲ 2.1	145,142	0.2	2,079,780	▲ 2.0	▲ 3,101	2,082,881	▲ 2.0	▲ 4.0	2.0
	塗工印刷用紙	4,338,067	▲ 2.4	377,849	▲ 22.3	4,715,916	▲ 4.3	▲ 33,755	4,749,671	▲ 4.1	▲ 3.5	▲ 0.6
	情報用紙	1,340,037	2.1	487,704	▲ 5.7	1,827,741	▲ 0.1	▲ 8,249	1,835,990	1.3	▲ 0.7	2.0
	印刷・情報用紙計	7,612,742	▲ 1.5	1,010,695	▲ 12.0	8,623,437	▲ 2.9	▲ 45,105	8,668,542	▲ 2.5	▲ 3.0	0.5
	未ざらし包装紙	461,948	▲ 0.9	5,935	▲ 10.9	467,883	▲ 1.0	1,876	466,007	▲ 1.2	▲ 2.0	0.8
	ざらし包装紙	248,940	▲ 2.9	1,028	▲ 19.9	249,968	▲ 2.9	▲ 29	249,997	▲ 3.1	▲ 2.4	▲ 0.7
	包装用紙計	710,888	▲ 1.6	6,963	▲ 12.3	717,851	▲ 1.7	1,847	716,004	▲ 1.8	▲ 2.2	0.4
	衛生用紙	1,823,823	3.2	185,907	4.0	2,009,730	3.3	0	2,009,730	3.3	0.3	3.0
	雑種紙	713,671	▲ 2.2	19,081	8.9	732,752	▲ 1.9	0	732,752	▲ 1.9	0.0	▲ 1.9
紙 計	13,774,231	▲ 1.2	1,238,863	▲ 11.0	15,013,094	▲ 2.1	▲ 43,258	15,056,352	▲ 1.9	▲ 2.2	0.3	
板紙	ライナー	5,388,648	1.8	41,372	▲ 9.9	5,430,020	1.7	184	5,429,836	1.8	0.7	1.1
	中芯原紙	3,586,830	1.3	2,077	▲ 79.6	3,588,907	1.1	2,629	3,586,278	1.1	0.7	0.4
	段ボール原紙計	8,975,478	1.6	43,449	▲ 22.5	9,018,927	1.5	2,813	9,016,114	1.5	0.7	0.8
	白板紙	1,410,681	1.2	442,802	▲ 0.0	1,853,483	0.9	▲ 2,525	1,856,008	1.0	▲ 0.7	1.7
	黄チップ・色板	142,940	▲ 1.2	0	-	142,940	▲ 1.2	▲ 213	143,153	▲ 1.0	0.0	▲ 1.0
	紙器用板紙	1,553,621	1.0	442,802	▲ 0.0	1,996,423	0.8	▲ 2,738	1,999,161	0.8	▲ 0.6	1.4
	その他の板紙	635,295	▲ 0.2	12,822	▲ 5.6	648,117	▲ 0.3	1,432	646,685	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.0
板紙計	11,164,394	1.4	499,073	▲ 2.7	11,663,467	1.3	1,507	11,661,960	1.3	0.4	0.9	
紙・板紙計	24,938,625	▲ 0.1	1,737,936	▲ 8.8	26,676,561	▲ 0.7	▲ 41,751	26,718,312	▲ 0.5	▲ 1.1	0.6	

注) 1) 国内出荷: 雑種紙は塗工印刷用原紙を除く。

2) 輸入: 新聞用紙は日本製紙連合会並びに日本新聞協会調べ。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上した。

重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上した。

衛生用紙は製品輸入を含む。

白板紙はミルクカートン用紙を含む。

内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算している。